

平成 27 年度 大阪成蹊女子高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- ① **(女子教育の推進)** 本学園の建学精神である「桃李不言下自成蹊」、「忠恕」の精神の基づき、社会に求められる「自立し、品格ある女性」を育てる女子教育を推進する学校
- ② **(キャリア教育の推進と人間力の育成)** キャリア教育を教育の柱として、女性として自主的に生きる力を育み、人間力を高めるために必要な資質・能力が育つ学校
- ③ **(国際教育の推進)** グローバル社会に求められる多文化共生のマインドと、必要な能力を高めるため、確かな学力を育み、基礎基本の学力の着を図るとともに国際教育を推進する学校
- ④ **(多様なコースで夢を実現)** 「キャリア進学」、「幼児教育」、「アート・イラスト・アニメーション」、「スポーツ」、「キャリア特進」の特色ある5コースにより、生徒の多様なニーズに応え、個々の生徒の夢を実現する学校
- ⑤ **(人権教育の推進、安全で安心な学校)** 教職員と生徒との信頼関係を築き、共生の観点を基本として豊かな人権感覚を育むとともに、生徒にとって安全で安心な学校

2 中期的目標

- ① 今後の公立中学生数の減少や、私立高校の授業料無償制度の見直し(平成 27 年度から 3 年間は継続、所得基準は見直し)、府立高校入試制度の変更(普通科は後期だけ)など様々な外部環境の変化に関わらず、常に生徒が集まる魅力ある学校をめざす。そのため、キャリア教育の更なる充実を含めた学校力の向上と、募集広報活動の強化を両輪とした学校経営を促進する。**(学校力向上と募集広報活動の充実)**
- ② 校長を中心として全教職員が一体となる学校運営に努め、「チーム成蹊」として学校組織力を更に強化する。とりわけ、平成 26 年度設置した主幹教諭・副主幹教諭を中心に各コースや分掌の長、いわゆるミドルリーダーが一定の権限と責任を有して、それぞれの役割を担い、円滑な学校運営に努める。**(全教職員が一体となった学校運営)**
- ③ 評価育成システムは、校長の進める学校経営に主体的に参画することを前提に、個々の目標設定を行い、校長の支援のもとで目標達成に向けた教員の取組みを評価し、教員のスキルアップを図る。**(評価制度の説明と教員のスキルアップ)**
- ④ 本校の学びの目標である成蹊スタンダードを明確にし、その3ヵ年の教育目標の達成に向けた各教科の取組みを計画的に進める。また、生徒の学習意欲を高め、日々の教科指導を点検し充実させるなど、「わかる授業」の実践と学力の向上を図るとともに、生徒の達成感を育むことをねらいとして漢字検定・英語検定・秘書検定の合格率の向上もめざす。**(学習指導の充実と学力の向上)**
- ⑤ 昨年度から全コース実施の「女子に特化したキャリア教育」は、本校の最大の特色であり、その取組みを更に充実させる。これからのキャリア教育の方向として、新たに国際教育の観点を取り入れた「グローバルなキャリア教育」の実践を進める。また、グローバル時代の要請に応え、すべての教育活動の中に積極的に国際教育(国際理解教育)の観点を取り入れる他、海外研修・海外修学旅行の事前学習を更に充実させるとともに、海外留学生の積極的な受け入れを進める。**(グローバルなキャリア教育と国際教育の推進)**
- ⑥ 生徒の多様な進路選択を尊重しつつ、併設大学及び併設短大への内部進学者数の確保に努め、学園全体の発展を見据えた進路指導を推進する。**(進路指導の充実と内部進学者の確保)**
- ⑦ 全教職員の共通理解の下、学校の方針として生活指導(服装指導・頭髪指導等を含む)の徹底を図る。特に生徒の自尊感情を醸成する「成蹊pride」の趣旨を生徒・教員で共有し、その確立をめざす。**(生活指導の充実と自尊感情の醸成)**
- ⑧ 昨年度制定した「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、本校でのいじめ対策について全教職員で共通理解を図る。また、相手を尊敬し、お互いの人権を尊重する人権教育の推進にも努める。**(いじめ防止と人権教育の推進)**
- ⑨ 学園が提携したベルリッツ・ジャパンによる英会話講習、ALTの活用を進める、リスニング・スピーキングを重視する「使える英語力」の育成を積極的に進める。**(使える英語教育の推進)**
- ⑩ 全教室に設置したロールスクリーンや配置した i-Pad、TV モニター、電子黒板等を活用した ICT 機器・視聴覚機器の活用を積極的に進める。**(ICT 機器の活用)**

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒アンケート結果 [平成 27 年 12 月実施分] (抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活が充実し、楽しいという回答は全体でほぼ 9 割である。</li> <li>・所属するコースに満足しているという回答は、「スポーツ」が 91%、「幼児教育」89%、「美術」88%、「キャリア特進」81%、「キャリア進学」77%で、高水準であるがコース間に差が見られた。教育目標が明確なコースには高い評価結果となっている。</li> <li>・学校行事に関するアンケートでは、文化祭や体育祭など楽しく行われているとした生徒は 75%。特に「スポーツ」90%、「幼児教育」80%で高い割合になっておりコースの特性が現れている。</li> <li>・この学校には他校にない特色があるとした生徒はほぼ 8 割で、コース別では「美術」85%、「スポーツ」82%、「幼児教育」80%、「キャリア進学」76%、「キャリア特進」70%となっている。</li> <li>・コース別質問では、「キャリア進学」の「コースの進路指導は充実している」、「勉強合宿に満足している」が共に 83%。「幼児教育」の「ピアノ発表会、ミュージカルなどのコース行事に満足している」が 95%。「スポーツ」の「グラウンド・体育館等の施設に満足」が 94%。「美術」の「美術の授業に満足」が 90%。「キャリア進学」の「講習や補習が充分に行われている」が 81%と高い割合である。</li> <li>・肯定的回答が少ない項目は、「生徒会活動に積極的な参加している」が 35%、「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」が 54%となっている。</li> </ul>	<p>第 1 回 平成 27 年 6 月 18 日 全委員出席</p> <p>○本年度教育方針について</p> <p>年度当初の職員会議に行った学校長の平成 27 年度教育方針、「本校のめざす学校像」、「中・長期の教育目標」、「本年度の教育目標」について趣旨説明を行う。</p> <p>各委員の意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度及び中・長期の教育目標は大変わかりやすいもので、学校のめざす方向が明確に定まっている。この目標を、全教員が共有化することが重要である。</li> <li>・学校力を高め、生徒の学力向上と人間力を育成することが学校の使命。そのために教科の成蹊スタンダードは重要で、これを全教員で共有し、その目標達成に向けた努力が必要である。</li> <li>・学校長による管理運営規則、教務規定の改定、評価育成システムの導入など、校長のリーダーシップが校内にほぼ定着した。中間管理職が主体的に校長の意向を踏まえた、自主的な管理能力が発揮できる環境を維持してもらいたい。</li> <li>・2 年目となる評価育成システムの導入により、PDCA サイクルを活用した校長の継続的指導は、組織力としての学校力全体の向上に結びついている。また、全教科で行った生徒の授業アンケートも、教科指導力の自己点検として成果があった。</li> <li>・平成 27 年度の入学者数は 445 名に減少した。募集活動の強化が必要である。</li> <li>・今後の展望として、府立高校の前期普通科の入試変更や、内申書の 5 段階絶対評価への変更など、不透明な材料が増える中で、500 名以上の入学者を集める事が目標となり、更なる募集広報活動に努力と工夫が必要である。</li> </ul>

<p>○保護者アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この学校には他校にない良さがある」と思う保護者は90%になる。</li> <li>・「この学校に入学させて良かった」という問いに対して肯定的な回答はたいへん多く、全体で87%に達する。</li> <li>・「併設の短大・大学を有する総合学園の長所が生かされている」という回答は85%で、思わないという回答は2%で大変少ない。</li> <li>・進路指導では、「生徒の希望する進路が保障されている」と「補習や講習が整備されている」という回答は共に76%に達している。</li> <li>・「生徒は学校生活を楽しく、充実していると感じている」という回答は80%に達している。</li> <li>・「生徒を犯罪や事故から守る安全教育の充実が図られている」という回答は82%で高い評価であった。</li> <li>・肯定的な割合が他に比べて低い質問は、「学校からの通信や文書が家庭によく伝わる」が61%、「分かりやすくするために先生は工夫している」が61%、「学校はグローバル化対応して国際教育を進めている」が71%である。</li> </ul> <p>○アンケート結果の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒及び保護者とも、5コース制及びキャリア教育の本校の特色をよく理解しており、学びの満足度も高い。引き続き、特色の鮮明化に努め、今後の広報戦略の柱とする。</li> <li>・全体的に高い肯定的意見であるが、否定的な1割程度の生徒および保護者の内容についても検討し、すべての項目で100%をめざす必要がある。</li> <li>・改善の余地がある項目としては、教員の進める授業への更なる工夫が必要である。また、本年度から実施しているグローバル対策や国際教育での更なる充実に向けて、保護者の方の理解を得るために、学校としての更なる努力の必要がある。</li> </ul>	<p>第2回 平成28年3月22日 全委員出席</p> <p>○本年度の取組みと学校評価アンケートの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭、校長の学校評価報告の説明、及び生徒・保護者への評価アンケートの報告。</li> <li>・生徒の評価は、学校生活は楽しく、充実していると大変高い評価であるが、主に学校行事や部活動に関するものが高い。一方、生徒の学力向上に関わる内容については、もっと高い評価になるよう授業改善や工夫が必要である。</li> <li>・このような生徒アンケートを実施した場合、そのアンケート結果の活用について生徒に報告することも大切。アンケートの結果、このように改善できたということを生徒に伝えてもらいたい。</li> <li>・保護者の評価では、「この学校には他校にない良さがある」という項目が、高い割合である。また、ICT及びグローバル時代に対応しているという評価は低い。今後は学校を挙げて、ICT活用への取組みを強化すべき。</li> <li>・校長から、次年度以降のグローバル施策の予定を紹介。是非とも進めて欲しいという意見が多数。</li> </ul> <p>○学校改革に向けた新規取組み報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価育成システムの本格実施が進み、PDCAサイクルでの日常的な授業観察と生徒の授業評価アンケートの実施は、これからの学校運営に大きな役割を果たすもの。</li> <li>・教員の力量を高めることが、学校力の向上に繋がる。教員組織体制を固めるため、管理職に主幹・副主幹の複数設置は的を得たものである。 以上</li> </ul>
--	---

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上とキャリア教育	(1)学習指導の充実 ア.本校での3年間の学びの目標である「成蹊スタンダード」を作成し、全教職員で共有化する。 イ.授業公開・研究授業を積極的に実施し、指導力の向上を図る。 ウ.評価育成システムでのPDCAサイクルでの振り返りなども活用する。	(1)学習指導の充実 ア.平成26年度当初に学習到達目標の「成蹊スタンダード」の基本方針を設定した。本年度は目標達成に向けた取組みを具体的に教科で検討し、「成蹊スタンダード」をよりいっそう明確化し、実践する。 イ.日常的な教科指導の振り返りと授業点検を進め、全教科で研究授業を更に積極的に進める。また、管理職による授業見学も随時実施する。 ウ.PDCAサイクルに基づいて、日常的な振り返りと授業点検、全教科で研究授業を積極的に進める。全生徒対象の授業アンケート、保護者も含む学校評価アンケートで、個々教員の授業評価を行う。	(1)学習指導の充実 ア.成蹊スタンダードの制定の可否 イ.授業公開の実施 研究授業の実施回数と成果 ウ.授業評価アンケート、学校評価アンケートの結果	(1)学習指導の充実 ア.教科別にプロジェクトチームを立ち上げ、国語・数学・社会・理科・英語の5教科において、教科会での審議を経て成蹊スタンダードを策定し、実践。教科別に差があるが、英語は良い成果を達成。他教科は、これからの成果に期待したい。 イ.授業公開週間の授業観察者は、保護者及び教員数の参加が大きく増加。また、本年度は座学の全科目で実施、実施回数も5割増加した。 ウ.アンケートを実施し、各コース別の課題が鮮明になる。また、生徒の学習意欲の差が明確になり指導上の参考となった。
	(2)グローバルなキャリア教育の充実 ア.グローバルなキャリア教育の推進として、国際交流や海外修学旅行を企画する。 イ.使える英語力の向上をめざす。	(2)グローバルなキャリア教育の充実 ア.これまでの修学旅行は、アメリカ、フランス、沖縄石垣からの個別選択であるが、次年度よりクラス単位の全海外修学旅行を企画する。また、新規の海外研修も立案する。 イ.使える英語力の向上をめざして英語の授業の中でのスピーキング、リスニングの指導を重視する。また、英検に代わって、GTECの検定実施を検討する。	(2)グローバルなキャリア教育の充実 ア.海外研修の成否 イ.英語の授業評価アンケート結果、GTEC実施の有無	(2)グローバルなキャリア教育の充実 ア.海外修学旅行の中で、フランス修学旅行がテロ事件で中止となり、台湾旅行へ変更。生徒の海外研修の満足度は大変高い。 イ.次年度以降にGTECの導入を実施する方向。また、大阪府のグローバル事業で、TOFELの日曜講座を受講する本校生2名が府から選出された。

2 コースの 特色化と 生徒募集 力の維持 向上	(1) 募集の強化 ア. 昨年の入学者は 445 名で、減少した。募集環境(府立高校の入試一本化、内申書の評定の見直し)の入試状況の変化に対応し、平成 28 年度は安定募集の 500 名を募集目標とする。 イ. 今後の募集広報戦略の強化に向けて、広報の取組みを更に充実させる。	(1) 募集の強化 ア. 生徒募集の強化として、オープンスクール実施では全教職員体制を徹底するとともに、代表生徒のプレゼン、新規 DVD の作成など全体説明の内容を工夫した。また、5 コース説明のレベルアップのために、コース別説明を点検する全体研修を実施する。 イ. 生徒の入学基準を明確にするるとともに、新たな配布物の工夫や、中学校教員、塾教員対象説明会では、説明会の内容を工夫する。 また、オープンスクールのコースイベントの改善、中学生の集客力向上を図るためケーキバイキングを 6 月に 1 回実施し、参加者数の増をめざす。	(1) 募集の強化 ・平成 28 年度の入学者目標数は 500 名以上 ・OS での来場者数 10% アップを目標にする。 ・教員対象説明会の参加者数を増加させる。	(1) 募集の強化 ア. 本年度、過去 30 年間で最大の 688 名が入学した。志願者も 1,000 名から 1,500 名の 5 割増となった。 イ. 「女子に特化したキャリア教育」を前面に出し、新たなパンフレットを工夫し作成。その結果、OS の参加者は昨年比の 15% 増で、のべ 6,448 名となった。目標を大きく上回った。
	(2) コースの特色化 ア. 本校の特色の柱として「グローバルなキャリア教育」を前面に出した広報活動を展開する。 イ. 次年度、普通科美術コースから専門学科美術科への改編の準備と募集広報の戦略を構築する。 ウ. 各コースの特色を更に鮮明化する。	(2) コースの特色化 ア. キャリア教育の実践強化として、推進 P T 継続し、全コースで実施しているキャリア教育の科目「キャリアデザインα」の充実を図る。 また、併設大学との連携型キャリア教育を充実。 イ. 専門学科美術科の開設準備を、美術コースの総力でを行い、3 月に大阪府から認可を受けられるよう処理・対応する。 ウ. 各コースでの他校に見られない特色ある取組みをさらに鮮明化し、中学生とその関係者への情報発信力の強化に努める。	(2) コースの特色化 ア. キャリア科目の全コース 1 年次での実施可否 イ. 美術科の設置認可の可否 ウ. コース特色鮮明化の取組み内容	(2) コースの特色化 ア. キャリア教育推進プロジェクトチームにより、全コースの 1 年生で「キャリアデザインα」科目を継続した。 イ. 府の美術科の認可を得ることができた。計画通りに専門学科の設置を行った。 ウ. コース説明のパンフレットを新たに作成。コースの特色あるイベントも多数実施できた。中学生に好評で、OS のリピータも増加した。
3 学校運営	(1) ミドルリーダーの育成 平成 26 年度に設置した主幹、副主幹を中心とするリーダー会議の役割を明確にし、コース主任・部主任との連携の下、学校運営を円滑に行う。 (2) 職員会議をはじめとして、各種委員会の機能の充実と、効率性の向上を図る。 (3) 本校独自の人事考課制度である評価育成制度を円滑に実施し、PDCA サイクルを活用した学校力の向上を図る。	(1) 主幹、副主幹の職務を職員会議で明確化し、各コース主任・分掌長での業務分担を整理した。また、各ポストの教員と管理職との連携を密に行い、管理職とコース主任・部主任との協議の場である校務運営会議を活用する。校長のマネージメント力を発現できる組織体制をめざした。 (2) 職員会議をはじめとして各種会議は、最小回数かつ最短時間で効率的な会議をめざす。 (3) 校長が年度当初に全教員を対象として、本年度の教育目標を発表説明し、それに基づいて各教員が自己申告票で自己の目標を設定する。この制度の円滑な運用を行う。管理職は授業見学、研究授業及び個別面談等で教員をサポートし、指導改善に向けた取組みを支援する。	(1) 各ポスト教員との個別相談や面談機会の回数 (2) 会議の効率化状況を把握、会議の実施回数と平均の所要時間 (3) 自己申告票の提出状況、学校の教育力を学校評議会の意見、学校評価アンケートで確認	(1) 各ポスト教員の校長室への個別案件等の相談回数等は、1 日あたり平均 3.5 件で、前年比の 20% 増となった。校長の勤務 3 年目となって、学校経営も校長のリーダーシップのもとで安定化の傾向である。 (2) 会議の実施回数は前年度より減少の傾向。また、平均会議時間もコースや部によって差はあるが、おおむね減少傾向であった。 (3) 評価育成制度は、自己申告票の提出、開示面談等実施できた。開示面談は 3 月末に完了せず、翌年度の 4 月にずれこんだ。 PDCA サイクルでの評価と生徒授業アンケートの結果は、開示面談で個々の教員に伝達した。教員の指導力の改善に寄与できたと判断する。

#### 4 今後の改善方策

<p>1 学習指導の充実</p> <p>① 平成 28 年度から変更した教育課程の円滑な実施に向け、各教科での対応力の向上を図るため、教員研修や外部の教育研修を広く活用する。また、管理職と各教科主任との個別協議の時間を設定し、管理職主導で教科指導の充実を図りたい。</p> <p>② 資格検定である漢字検定、英語検定、秘書検定の 3 つの柱を軸として、全生徒の個別目標に沿った検定合格をめざす。とりわけ、平成 28 年度から英検を GTEC に切り替え、全員受検をめざしたい。また、使える英語力の充実として、これまでの放課後のベルリッツ社による英会話教室 5 講座に加えて、TOEIC の講習も開始する。</p> <p>2 グローバル教育の充実</p> <p>① 国際教育の推進のために設置した国際教育部の円滑な職務遂行に、全教職員の協力・支援体制を固める。</p> <p>② これまでの海外研修に加えて新規の台湾国際交流研修を企画・実施する。5 月に提携校の金陵女子高級中学から生徒 32 名を向かえ、12 月には本校から生徒を台湾に出かける予定である。</p> <p>③ 2 年生の翌年から実施する全コースの海外修学旅行に向けたプランニングを行う。</p> <p>3 コースの特色化と生徒募集力の維持向上、キャリア教育の推進</p> <p>① 各コースは、それぞれ特色ある教育活動を多数展開している。その結果として、生徒の自主性を育み、生徒の意欲を高めている。</p> <p>② キャリア特進コースが新入生が 2 クラスとなったことから、平成 29 年度以降の入学生については 2 年次にレーン選択を実施し、学園内接続型のレーンと従来の外部受験型レーンとに分ける。</p> <p>③ 生徒募集の向上には募集企画室の室員だけでなく、全教職員の対応力等のスキルアップが求められる。平成 28 年度も全教職員を対象とした募集対策研修会を実施する。</p> <p>④ 募集広報活動の活性化を図るため、ホームページを活用した更なる情報発信と、オープンスクールでの全体説明等のプレゼンソフトの改良も積極的に進めることとする。</p> <p>⑤ キャリア教育は本校では 9 年目になる。社会の変化とニーズに応えるため「グローバルなキャリア教育」を学校教育方針の柱とする。</p> <p>4 校長のマネージメントによる学校運営の確立</p> <p>① 週の定例リーダー会議等で、本校の将来を見据えた学校経営のあり方について議論と共通理解を深める機会を増やす。中間管理職を含む各リーダーの意思統一と共通した学校経営方針の定着を図ることとする。</p> <p>② 各リーダーの意識を更に高めて、日常でのリーダー間の報連相の体制を確立する。</p>
---